

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立三重北小学校

校長 高橋 啓一

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- (1) 開かれた学校づくりを目指し、地域・保護者とともに共同できる学校にするために協議会を設置し、様々な視点からの意見や考えを交流し合いながら地域コミュニティづくりを推進します。
- (2) 教育活動を学校評価に基点を置いたものとします。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させ、改善に努め、保護者や地域の方々の思いや願いを反映した学校づくりを推進します。
- (3) 学習支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域とともにつくる学校」の推進を図ります。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 地域の教育力を生かした特色ある教育活動の実践事例

① 学習支援員による学習支援

地域住民や保護者に呼びかけ、さまざまな専門性をもった方を学習支援員として依頼しました。今年度は、低学年の音楽、3年生以上の書写（習字）、3、4年生の外国語活動、5、6年生の外国語の授業を支援していただきました。また、読み聞かせ支援員の方には、それぞれの学年に応じた選書をしていただき、毎学期1回程度の読み聞かせの活動をしていただきました。

【読み聞かせ学習支援】



【書写の学習支援】



【英語活動の学習支援】



【音楽の学習支援】



② 地域における体験的な学習活動

新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、一部計画通りに実施できませんでしたが、今年度も、地域からゲストティチャーを迎え、地域資源を生かした体験的な学習活動を全学年で実施しました。

【2年:善導寺住職の紙芝居】



【3年：たけのこ掘り体験】



【4年：陶芸教室】



【5年：米作り体験】



2年生「生活科・まちたんけん」では、地域と深いかかわりのある場所を子どもたちが訪ね、そこに伝わるお話を聞かせていただきました。

6年生は、平和学習として、地域の慰霊塔や防空壕後の見学等を行い、戦時中のくらしぶりや空襲の様子を戦争体験者から聞き取りました。

【6年：四日市空襲の話】



(2) 保護者・地域住民の意見を学校運営や教育活動に反映した事例

① 学校の教育環境整備

児童数の減少に伴い教職員数も減っている現状から、学校の教育環境整備に保護者・地域住民の力の活用をご提案いただいています。今年度も、学級園の土づくりや児童昇降口前の一輪車補助具の整備、除草作業等でご協力いただきました。

【竹製の一輪車補助具】



【学級園の整備】



【除草作業】



② 子どもたちの学びを止めない取り組み

運動会や持久走記録会等では、PTAの役員の方々に、参観者の把握、受付での検温や手指消毒、児童の見守り等の協力を要請し、

コロナ禍においても子どもたちの学びを止めることなく実施することができました。

また、感染リスクの高い音楽の授業では、学習支援員とともに、鍵盤ハーモニカをキーボードや木琴に替えたり、歌唱に手話を取り入れたりして、制約の中でも楽しい授業を目指しました。

【持久走記録大会】



【音楽：キーボードの活用】



③ 保護者・地域と連携した教育課題への取り組み

【オンライン講演会】

コロナ禍において、昨年から課題とされてきた生活リズム向上について、生活リズムチェックの実施やオンライン講演会（土曜活動）の開催等、保護者・地域を巻き込んだ取り組みを進めました。



2 コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

（1）安全・安心な学校づくり

学校だよりの地区回覧や日常的なHPの更新により、子どもたちの様子や学校の取り組みを積極的に地域へ発信し、保護者や地域から高い理解と協力を得ることができました。そして、コロナ禍においても計画していた学校行事のほとんどを安全・安心に開催することができました。

（2）子どもたちの学びに対する指導・支援の充実

地域住民、保護者による学習支援員の活躍で、子どもたち一人ひとりにきめ細やかな指導・支援を行うことができました。そして、教員一人ひとりが学習支援員やゲストティーチャーと協働し、その知識や専門性を活かした質の高い授業実践を目指すことができました。

（3）多様な視点を取り入れた学校運営

運営協議会委員は、自治会、民生・児童委員、学習ボランティア、PTA役員等で構成され、様々な立場から学校教育活動へのご意見をいただきました。

I C T機器の積極的な活用によって、学校での子どもたちの学び方が大きく変わってきましたが、このことについて、“これからの社会を生き抜く力の育成”の面から高く評価いただく一方で、メディアリテラシー教育の推進や生活リズム向上に関して、保護者・地域と連携した取り組みの必要性をご示唆いただきました。

（4）地域コミュニティの核としての学校づくり

地域における体験的な学習を通して、子どもたちは地域のことを知り、地域の方々と触れ合うことができました。そして、地域の歴史や地域産業等の学びは、周りの人とともに、地域を大切にしようとする心や将来の夢に繋がる取り組みとなりました。このようにして、学校が地域コミュニティの中心的存在となってきました。

3 今後に向けて

運営協議会委員をはじめ、保護者・地域の方の学校教育活動への支援は、子どもたちの学力向上とともに心の教育にもつながっています。そして、コミュニティスクールは、学校が小規模化し、教職員の負担が増加する中で、地域の教育力を活用していくためにパイプ役となっていていただいています。今後も、地域・保護者との連携した取り組みの意義を学校と地域が共有し、地域資源を活かした学習や体験活動等を推進していきます。学校づくりビジョンの実現に向け、地域とともにある学校づくりを推進していきます。